

# 地域の 基幹病院として

私たちは、常に、より高度な医療技術の習得に励み、最新の医療設備・医療機器を駆使して、患者さまに満足していただける医療を提供しております。  
地域の基幹病院として、地域のみなさまに安心していただける様、地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献してまいります。

## Report 1

## 救急科(救急センター・集中治療センター)のご案内

救急科は、4名の医師を中心に救急センター、救急病棟(20床)、集中治療センターをホームグラウンドとして診療に当たっています。

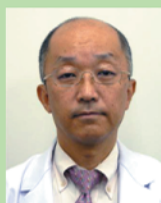


### ●医師と救急センター・集中治療センターのご紹介

#### 救急科の医師を紹介します

部長 兼 救急センター長

切田 学



**専門領域** 救急医学全般 災害医学 多発外傷  
腹部救急疾患 重症患者の代謝栄養  
阪神淡路大震災 JR福地山線事故での現場トリアージなど  
災害医療現場にて豊富な経験を持つ。

副部長 兼 集中治療センター長

金井 尚之



**専門領域** 救急医学全般 多発外傷  
腹部救急疾患 急性血液浄化法  
消化器内視鏡治療

#### 救急センター

救急科は、IF救急センターに搬入・来院される様々な内因・外因性の軽症・中等症傷病者、さらに脳卒中、急性心筋梗塞、消化管出血、腹膜炎、重症急性膵炎、重傷肺炎(急性呼吸不全)、急性薬物中毒、多発外傷、広範囲熱傷、熱中症、などの重症傷病者の初療に当たるとともに、病状によっては専門医と協力して初療に関わります。

救急車搬送傷病者においては、スピーディーに診察、処置と検査を行い、搬入から30分以内に診断をつけ、治療方針を決定するように心がけています。

#### Message

#### 救急科の2つの役割

救急科のスタッフは、専任常勤の医師4名、看護師35名、臨床工学士1名から成り、部長の切田、副部長の金井は「救急指導医」と「集中治療専門医」の資格を有するベテラン医師です。

その資格と経験を活かすべく、救急科の役割をご紹介します。1つ目は、救急車で搬入される、あるいは直接来院される緊急を要する傷病者を救急センターに受け入れ、スピーディーな診察・処置・検査を行うことです。搬入から30分以内に診断をつけ、治療方針を決定するよう心がけております。救急で最も大事なものは時間です。2つ目は集中治療室での重傷病者の診療に携わるとともに、病床管理を行うことです。救急での重症病患者様の対応連携を重視しております。

救急科(救急センター・集中治療センター)は、地域の基幹病院として、医療の最後の砦の使命を十分に果たしていきたいと考えております。

#### 集中治療センター

現在の集中治療センターは、病床数8床を有する開放型で、救急科の医師と各診療科の主治医が配置されており、協同して治療を行っております。3名の集中治療専門医と常勤看護師27名が配置されており、重症救急患者はもちろん、一般救急患者に対しても、常に各診療科と連携を取りながら最高の集中治療ができるよう配慮しております。

CCU(冠動脈疾患管理室)は一般的には個別に設置されることが多いのですが、当院ではより集中治療を高めるため、ICU(集中治療室)とCCUが併設されており、循環器科の医師も一緒に診療を行っております。

## DATA ●データ紹介

平成21年度は、13,475件の救急患者様を受け入れました。

救急車による搬送4,986件、一般救急患者様8,489件を受け入れ、このうち、集中治療センターでは828件の患者様を受け入れました。

集中治療センターでの受け入れ患者様のうち、最も多かったのが、脳腫瘍や脳卒中などの脳神経外科の患者で、次いで心筋梗塞や心不全に対する循環器科の患者でした。

当院は、集中治療センターでクモ膜下出血や急性心筋梗塞その他の重症な患者を積極的に受け入れており、三次施設(救命救急センター)にも遜色のない対応をしています。

実際に、心肺停止の患者や重症の頭部外傷の患者に脳低温療法を施行したり、心筋梗塞や肺塞栓(エコノミー症候群)の患者に人工心肺装置を装着したりしています。



▲ 開放型の診療室



▲ 重症患者8名を同時に受け入れ可能